



木村 裕

バナナのお話し

バナナは私たちが子供の頃は高級品でなかなか口には入らない果物でした。しかし今日では栄養豊かで安価な大衆の代表的果物となり、いつでもどこでも手に入ります。もちろん有機栽培のブランド品もありますが。

これらのバナナはどこからやってきたのでしょうか？ 台湾をはじめ東南アジアの各国で広く栽培されていますが、輸入量の多いのはフィリピン産です。また南米のエクアドルからもたくさん輸入されています。青くて堅い未熟のまま運ばれ、日本に着いてから後熟処理をされて黄色の果実となって市場に並びます。

バナナは寒がりやで日本では育ちませんが、一年中暑い熱帯地方ではいつも元気で葉を茂らせ、たくさんの果実をぶら下げています。現地の農家では庭先に何本も植えられていますがこれは自家用で、輸出用ではありません。



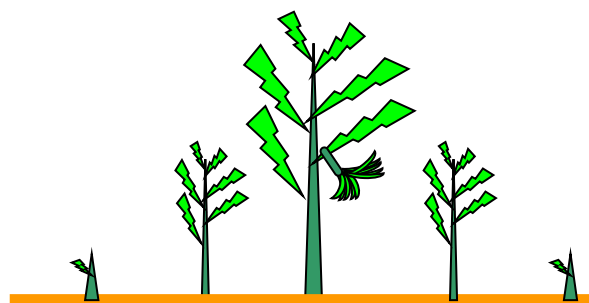
輸出用のバナナは果物専門の商社が大きな農園で大々的に栽培したものです。どこまでもバナナ畑が広がり、栽培から収穫・出荷まで一貫したシステムで周年収穫が続けられています。畑から集荷場までは太い鋼鉄のロープが張り巡らされ、そのロープに収穫された大きなバナナの房が吊るされて運ばれ、集荷場で洗浄・カットされ箱詰めされ出荷されます。

バナナは一段目の花が終わると二段目の花と順次咲き上がってゆきます（厳密に言えば頭が垂れるので下がってゆきます）。必要な段数に達すると先端部は切り取って色テープを巻きつけます。今週は赤、次週は青、という具合に色を変えてゆきます。収穫時期は開花後何日目と決まっているようで、この色テープが目印になっています。さらに病害予防のため果実の房全体に袋掛けも施されます。

質問です。バナナの樹？は私たちの背丈を超えるほど背高のつぼですが、収穫を終えると株はすぐに枯れるのでしょうか？ さらに丈が伸びて次の花と実をつけるのでしょうか？ それとも丈はそのままで翌年も同じ個所に次の花をつけるのでしょうか？ わかるかな？

話は変わりますが、私たちが食べているバナナは生食用ですが、バナナの産地の熱帯地方では、甘くない加工用のバナナがたくさん栽培され、焼いたり、蒸したり、揚げたりして主食として利用されています。どちらかといえば加工用品種が重要視されています。

質問の答えは、バナナは樹ではなく、カンナのような宿根性植物です。すぐには枯れませんがお役ごめで、収穫後の株は惜しげもなくぼっさりと切り倒され、株の周りからタケノコのように伸びてくる新しい株にバトンタッチします。通常、果実が大きくなる頃には、親株の周りの地面からは新しい芽がいくつも顔を出しています。その上に中くらいに育った株も数本あります。常に親、若者、赤ん坊の3つの生育段階がそろっています。なお新芽はたくさん出ますので、適当に間引きします。もちろん掘り取って新しい土地に移植することもあります。



子 → 若者 → 親